

持田寮 地域連携推進会議 議事録

日 時 : 令和 7 年 10 月 8 日 (水) 13:30～

場 所 : 持田寮 相談室

参加者 : 構成員 1 (地域の関係者)、構成員 2 (利用者保護者)
構成員 3 (男性利用者)、構成員 4 (女性利用者)、施設長、主任

開会 施設長より会議趣旨について説明。本会議は、本年度より義務化され、運営が閉鎖的になるおそれのある施設入所支援を行う施設において、外部の目を定期的に入れることで事業運営の透明性を図り、一定の質の確保につなげるため開催されるものです。詳細については事前にお渡ししたご参画の依頼文をご参照頂きたい。

委員の皆さまには、施設内の環境や、利用者さんの状況を見ていただき、様々な視点からお気づきになった点をお伝え頂けますようお願いいたします。

尚、会議及び施設見学において、利用者の個人情報に触れる可能性があります。権利擁護の観点から知りえた情報を他者に 漏らすことの無いよう、ご配慮をお願いいたします。

参加者紹介 施設長より参加者を紹介

議題

1. 施設紹介 施設長より概要紹介

①実施事業については、施設入所支援 (定員 30 名) 生活介護事業 (定員 35 名)

短期入所事業 (定員 6 名) 日中一時支援事業 (定員 10 名)

行っている事業については、配布資料の施設概要、パワーポイントのスライドをご覧ください。施設入所支援事業は、いわゆる入所施設での生活支援となる。日常生活支援と健康管理、休日のレクリエーション活動提供となっている。ただ、職員配置的な課題もあり、定期実施できるレクリエーション活動はドライブ等の簡易なものとなり、四季折々の行事を織り交ぜて、楽しみの提供するようにしている。

生活介護事業は、日中活動支援を中心とし、軽作業 (生産的な活動としては EM ぼかし生産) やそれぞれの方の実態に即した自立課題、創作活動と健康・リフレッシュ活動での音楽活動やウォーキング、希望者のスイミング活動を実施している。

②利用者構成については、議事次第資料を参照頂きたい。

年齢構成については、現在は 30～50 代が中心。開設から 35 年が近くなり、開設当初にいらした利用者が 5 名程度となり、一旦、開設当初組みの利用者が大半退所され、年齢層が若返った状況。

障がい支援区分は、区分の数が大きくなるほど、重度者、多くの支援が必要になる対象者の方となっている。施設入所支援の場合は区分 4 以上の方 (50 歳以上の方は区分 3 以上の方) が利用対象者となる。平均区分は 5.03 にて、区分 3 の方は現在いらっしゃらない。

③施設見学 構成員 1、構成員 2 施設長が案内

2. 権利擁護・サービスの質の向上ための取り組み

①権利擁護の取り組み 主任より説明

虐待防止チェックリストについては、法人全体の取り組みとなるが、年 4 回、職員に自身の行動について不適切な支援、行動がないか、自主点検をしてもらうものとなっている。日頃の点検により、課題を見つけ出し、改善を図る取り組みをするようにしている。

自治会活動については、月 1 回実施。重度の利用者の方が多く、意思表示をできる方は多くはないが、行事活動についての希望等の意見を聞く事が多い。旅行の行く先等も希望を加味しつつ決めるようにしている。

②法人委員会組織の取り組み 施設長より説明

配布資料、千鳥福祉会安全管理体制構成図を参照頂きながら説明。

法人横断の取り組みとなるが、各専門委員会にて、サービス提供における安全管理、質の担保を図るために、6 つの領域を取り上げ、課題の改善、向上の取り組みを行っている。

利用者みなさんの日常生活に関わる所として、主だったもの 2 つを紹介。

虐待防止・身体拘束適正化委員会は、利用者の権侵害や虐待につながる業務行為をなくし、権利の尊重を推進するための活動を行っている。

リスクマネジメント委員会は、ヒヤリハット集計と課題分析により、利用者みなさんの生活やサービス提供における質の改善の取り組みを行っている。マニュアル作成、更新も一つの役割。

安全管理委員会は、各専門委員会を束ね、安心安全な質の高いサービス提供を目指し、年 3 回、有識者である第三者委員、利用者ご家族である外部委員にご参加を頂き、ご意見を頂く、また、スーパーバイズを頂く場として取り組みを行っている。

3. 地域との関わりについて

パワーポイントのスライドをご覧いただきながら説明。利用者みなさんの地域活動、地域交流活動として、当施設で行っていることを紹介したい。

①やすらぎ喫茶、他地域行事参加

地元地域との連携は法人としても重きを置いて取り組んでいる所だが、特に持田寮で行っているものとして持田地区やすらぎ喫茶への参加を実施させてもらっている。地域みなさんの寄り合いの場として、持田公民館やすらぎ会館で月 1 回行われており、その場へ利用者みなさんも参加させてもらう取り組みを数年にわたって行っている。利用者みなさんも喫茶を楽しみにしておられ、地域住民みなさんも当施設利用者みなさんの参加があることを、今ではごく普通の光景として受け入れて下さっている様子で大変よろこんでいる。

法人の方でも積極的に持田地区の行事参加、協力をしているが、他、持田寮から参加したものとしては、夏に行われたもちだ夜市へ利用者みなさんも出掛けさせて頂いた。利用者みなさんも楽しんでいた。また、利用者みなさんの休憩用としてござを持参し、敷かせて頂いたのだが、地域みなさんも一緒に休憩所としてご利用になられる方々がいらっしやり、自然と交流ができたのはうれしい出来事だった。

②外出活動

利用者みなさんになるべくごく普通の生活を送って頂けるように外出機会を設けるようにしている。先ほど来、紹介させて頂いている活動の他、日常的な買い物や喫茶、外食、行事に合わせた外出をしている。これからの時期は旅行がみなさんの大きな楽しみだが、みなさんの希望も聞

きながら毎年、秋に実施するようにしている。また、今年の正月は、初詣・新年会で一畑電車の臨時列車の運行を依頼し、電車での旅を楽しめた。

生活介護事業での日中活動として紹介させてもらったスイミング活動については、開設当初頃から島根スイミングスクールさんにご協力を頂き、週に 1 回、スクールバスで迎えに来てもらい、コーチの方からご指導を頂きながら、泳いだり、水中ウォーキング等の運動をしている。希望者のみだが、利用者のみなさんにとっては楽しい活動となっている。

③その他

施設立地が住宅地に隣接しており、同敷地内に通所施設も 2 か所あるため、利用者の通所等で出入りがある。入所利用者の方の大半は住居棟や活動スペース建屋で過ごすと言うことで概ね認識あるが、中には意図して、またそうでない場合もあるが、敷地外に出られ、近隣住民の方のお世話になることも、まれにある。そうした事は、開設当初と比べると比較すると減少しているが、そうしたことに至らずに済む支援と近隣住民のみなさんとの関係づくりを進めるようにしている。

また、時代の変遷とともに外部者からの安全対策等の課題もあり、近年は 19 時～翌 7 時は正門を閉門させてもらうようにしている。

4. 意見交換

構成員 1 区分の説明で重度の障がいがある方が多いとのことだったが、バス利用をされる方等もいらっしゃるのか。

施設長 持田寮の利用者の方でご自身のみで乗車できる方はごく限られるが、職員が付き添っての外出支援で利用したりする人もいる。乗り物が好きな方もいったり、療育手帳での割引制度もあるため、外出時に利用するようにしている。

構成員 1 職員構成でパート従業員さんの割合はどのような感じか。

施設長 入所施設ベースのため、どうしても交代勤務でシフトを回す必要性があり、元々は常勤職員の比率が高かったが、近年はパート職員の比率が高くなってきつつある。世の中の人手不足や働き方改革で子育て世代が日中時間帯のみの勤務を希望される等あり、希望に即した勤務配慮をするようにしている。そのため、朝夕、土日に勤務者を集めることが難しく、パート職員等でカバーするようにしている。そうした職員の中にはシニア世代の職員も増えて来ているのが、最近の傾向。

構成員 1 今までの話の中でも少しあったが、外出はという風にされているのか。
みなさん、外出を楽しみにしておられるので、

構成員 2 感想として、うちの子も言葉もないですし、こだわり等もあり、職員のみなさんのお手を取っているではないか、と思っている。職員のみなさんには、日々、いろいろと配慮して支援をしてもらっており、感謝をしている。

構成員 3 廊下や食堂の掃除をしています。

構成員 4 他の利用者の方で自分にとって思わしくないことをされる人がおられていけん。（会議を通して、自身に関係ない話ばかりでご機嫌斜め。支援会議等を想像しておられた様子で、意に介さなかった様子）

以上